

大阪発アンチエイジング・スタイル 第8回 21cafe

[平成20年1月23日／大阪市北区：レーベルカフェ]

ゲスト：森下竜一氏（大阪大学大学院医学系研究科教授・アンジェスMG株式会社取締役）

森下氏は、遺伝子医療の研究者として、バイオベンチャーの創業者として、そして政府が進める知的財産戦略のメンバーとして、現在幅広く活躍している。今回の話は、世界における遺伝子治療とバイオベンチャーの動向、内閣府が進めてきたイノベーション25の概要、メタボリック症候群が起こってきた背景と個人でできる解消法など、多岐にわたった。灘のお酒の醸造や道修町の薬種問屋にはじまる関西のバイオ歴史は、地に足のついた流れの深いもので、大学での基礎研究を製薬企業にきちんとつなげていくことが、今の大阪には必要だと強調した。



大阪スタイル 第9回 21cafe

[平成20年3月14日／大阪市北区：レーベルカフェ]

ゲスト：鷺田清一氏（哲学者・大阪大学総長）

大阪には、本当に大事なものは、自分たちで寄付してつくるといふ文化が根付いていた。18世紀には懐徳堂や適塾など、日本で一番レベルの高い学問所が商人の出資で作られていた。鷺田氏は、「気前の良さ」と「学芸」は大阪が本来持っているスタイルだとし、大阪でムーブメントを起こすならば、この本道に帰るべきだといふ。現在大阪大学では、「阪大スタイル」と称して、国や学問への忠誠ではなく、市民社会への忠誠を目指している。そして大人と子ども、男性と女性、専門家と一般市民など、さまざまな異文化をもつ社会において、それらの間をきちんと橋渡しできる力を育てていきたいといふ。



大阪港ベイエリアのまちづくり・港づくり 第22回 賛助会員講演会・交流会

[平成20年2月14日／ワールドトレードセンター]

講師：川本 清氏（大阪市港湾局長）



大阪市港湾局長の川本氏より、大阪再生の切り札として期待が高まる大阪港ベイエリアの現状と今後の戦略についてお話いただいた。

まずは講演会に先立ち、舞洲・夢洲での現地視察が行われた。陸・海・空のアクセスが良い同地区では、近年、メーカーや物流企業による大型物流施設の建設が相次いでいる。一行は、土地利用の転換で変貌を遂げるようすを視察したあと、講演会場のWTCコスモタワーへ移動。地上252mの展望台から大阪湾を一望し、ベイエリアの活況を実感した。

講演で川本氏は、大阪港が工業港から商業港に変わっていくようすを航空写真で解説。臨海地域で進められている国の機関や教育施設、企業などの誘致計画についても映像を交えて紹介した。そして話題は国際物流の現況へ。大阪港は平成16年、国際物流機能の効率化を促すため、神戸港と連携して「スーパー中枢港湾」



夢洲では海外物流企業のコンテナヤードの建設が進む

の指定を受けている。そこで川本氏は、「アジア発着の海上コンテナ貨物が増加するなかで、より一層の国際競争力の強化を図らなければならない」と強調。アジア諸国の主要港湾をしのぐコスト・サービス水準の実現を施策目標に掲げ、基盤インフラ施設の整備や夢洲コンテナターミナル株式会社（DICT）の設立、物流・産業



の誘致、埠頭の再編などに取り組んでいることを説明した。最後に「観光交流の場としても魅力ある港づくりを推進し、水都大阪2009への発展へと繋げたい」と締めくくった。